

2027年 3 月期
第 1 四半期
決算補足説明資料

目次	
四半期別業績推移（四半期別連結損益計算書）	1
四半期別セグメント別業績推移	2
中間業績見込み修正概要	3

2026年 8 月 7 日
株式会社理経

四半期別業績推移（四半期別連結損益計算書）

（単位：百万円）

前連結会計年度	2026年3月期 中間実績	2026年3月期 通期実績
売上	9,804	19,535
売上総利益	1,639	3,726
販売費及び一般管理費	1,219	2,489
営業利益	419	1,236
営業外収益・費用	△ 52	△ 159
経常利益	368	1,078
特別利益・損失	-	-
税引前四半期利益	368	1,078
税金費用	151	319
当期純利益	217	759
非支配株主に帰属する中間(当期)純利益	△ 6	△ 13
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	210	746

2025年 4月～6月 実績	前年同期比	2025年 7月～9月 実績	前年同期比	2025年 10月～12月 実績	前年同期比	2026年 1月～3月 実績	前年同期比	2026年3月期 通期実績	前年同期比 (通期)
6,163	16.4%	3,640	-15.8%	3,467	-17.2%	6,264	27.3%	19,535	4.3%
851	17.6%	788	-5.8%	650	-14.8%	1,437	19.0%	3,726	5.5%
615	6.7%	604	4.5%	628	0.2%	641	0.9%	2,489	3.0%
236	60.1%	183	-29.0%	21	-84.0%	795	39.1%	1,236	11.0%
0	-	△ 52	117.3%	△ 82	-	△ 24	-64.1%	△ 159	-
236	61.8%	132	-43.7%	△ 60	-	770	53.2%	1,078	5.8%
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
236	67.1%	132	-38.5%	△ 60	-	770	53.2%	1,078	8.5%
147	14.0%	3	-93.3%	16	-	151	188.6%	319	-1.4%
88	652.3%	128	-19.1%	△ 76	-	619	37.4%	759	13.3%
△ 6	-	△ 1	0.0%	0	0.0%	△ 7	143.3%	△ 13	38.5%
83	607.2%	127	-18.2%	△ 76	-	612	36.7%	746	12.9%

前年同期比 マイナス比増減は「-」で記載

当連結会計年度	2027年3月期 (修正) 中間期見込	2027年3月期 通期予算
売上	9,900	18,900
売上総利益	-	-
販売費及び一般管理費	-	-
営業利益	200	740
営業外収益・費用	-	-
経常利益	200	700
特別利益・損失	-	-
税引前四半期利益	200	700
税金費用	-	-
当期純利益	-	-
非支配株主に帰属する中間(当期)純利益	-	-
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益	65	420

2026年 4月～6月 実績	前年同期比	通期比進捗
7,195	16.7%	38.0%
910	6.9%	-
658	7.0%	-
252	6.7%	33.9%
9	-	-
260	10.3%	37.0%
-	-	-
260	10.3%	37.0%
172	16.6%	-
88	-0.1%	-
△ 6	21.4%	-
81	-1.5%	19.2%

当第1四半期連結累計期間におきましては、連結売上高は71億9千5百万円（前年同期比16.7%増）となりました。損益面では、営業利益は2億5千2百万円（前年同期比6.7%増）、経常利益は2億6千万円（前年同期比10.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は8千1百万円（前年同期比1.5%減）となりました。

また、2026年5月13日に公表いたしました2027年3月期 第2四半期（中間期）（2026年4月1日～2026年9月30日）の業績予想値を売上高99億円（前回予想値83億5千万円）、営業利益2億円（前回予想値1億2千万円）、経常利益2億円（前回予想値1億2千万円）親会社株主に帰属する中間当期純利益6千5百万円（前回予想値2千万円）に修正しました。2027年3月通期業績予想については、変更の必要性が生じた場合には別途開示いたします。

四半期別セグメント別業績推移

(単位：百万円)

前連結会計年度		2026年3月期 中間実績	2026年3月期 実績	2025年 4月～6月実績	前年同期比	2025年 7月～9月実績	前年同期比	2025年 10月～12月実績	前年同期比	2026年 1月～3月実績	前年同期比	2026年3月期 通期実績	前年同期比 (通期)
システムソリューション	売上	1,420	3,777	618	2.2%	801	-16.4%	732	-7.7%	1,624	18.4%	3,777	1.3%
	営業利益	△ 43	183	△ 44	-	△ 1	-94.4%	△ 52	-	278	76.5%	183	574.1%
ネットワークソリューション	売上	854	1,773	311	58.6%	542	17.2%	411	71.8%	507	-42.7%	1,773	-0.6%
	営業利益	△ 28	17	△ 58	-	32	-37.3%	△ 16	-	61	-62.0%	17	-81.5%
電子部品および機器	売上	7,529	13,985	5,234	16.5%	2,295	-20.9%	2,323	-26.3%	4,132	55.0%	13,985	5.9%
	営業利益	491	1,036	339	6.4%	152	-20.7%	90	-61.0%	454	80.7%	1,036	4.2%
合計	売上	9,804	19,535	6,163	16.4%	3,640	-15.8%	3,467	-17.2%	6,264	27.3%	19,535	4.3%
	営業利益	419	1,236	236	60.1%	183	-29.0%	21	-84.0%	795	39.1%	1,236	11.0%

前年同期比 マイナス比増減は「-」で記載

当連結会計年度		2027年3月期 (修正) 中間期見込	2027年3月期 通期予算	2026年 4月～6月実績	前年同期比	通年進捗
システムソリューション	売上	1,609	3,750	650	5.2%	17.4%
	営業利益	-	-	△ 66	-	-
ネットワークソリューション	売上	536	1,900	227	-26.8%	12.0%
	営業利益	-	-	△ 75	-	-
電子部品および機器	売上	7,755	13,250	6,316	20.7%	47.5%
	営業利益	-	-	393	16.0%	-
合計	売上	9,900	18,900	7,195	16.7%	38.0%
	営業利益	200	740	252	6.7%	33.9%

システムソリューションにおきましては、大学向け案件において前連結会計年度から繰り越された大型ネットワークシステム案件を売上計上したに加え、製造会社向け3D CADソフトウェアのサブスクリプションビジネス（年間更新ライセンス・保守製品）が好調に推移しました。特に、低軌道衛星製造会社向け製品のライフサイクル管理ソリューションの販売が大きく貢献したことにより、売上高は6億5千万円（前年同期比5.2%増）、営業損失は6千6百万円（前年同期は4千4百万円の営業損失）となりました。

ネットワークソリューションにおきましては、低軌道衛星向け関連製品が好調に推移しました。一方で、市場環境の変化による映像配信システム案件の減少、4.9GHz帯製品の販売終了に伴う新規開発の代替製品の市場投入遅れによる無線ビジネスの不調、ならびに前年同期にJアラート新型受信機への移行に伴う関連製品の大型納入案件があったことにより、売上高は2億2千7百万円（前年同期比26.8%減）、営業損失は7千5百万円（前年同期は5千8百万円の営業損失）となりました。

電子部品及び機器におきましては、連結子会社である株式会社エアロパートナーズにおいて、防衛省向け航空機用部材の一部納入予定が下期から前倒しとなったことにより、売上および利益に貢献しました。また、半導体市場の需要回復を背景に、生産ラインFA向け半導体製品の売上も順調に推移しました。低軌道衛星搭載部品の新規受注・売上により、売上高は63億1千6百万円（前年同期比20.7%増）、営業利益は3億9千3百万円（前年同期比16.0%増）となりました。

中間業績見込み修正概要

連結損益

2026年5月13日に公表いたしました2027年3月期 第2四半期（中間期）（2026年4月1日～2026年9月30日）の業績予想値を売上高99億円（前回予想値83億5千万円）、営業利益2億円（前回予想値1億2千万円）、経常利益2億円（前回予想値1億2千万円）親会社株主に帰属する中間当期純利益6千5百万円（前回予想値2千万円）に修正しました。

主として連結子会社である株式会社エアロパートナーズにおいて、防衛省向け航空機用部材の一部納入予定が下期から前倒しとなったことにより、売上高、利益とも増加する見込みです。

2027年3月通期業績予想については、変更の必要性が生じた場合には別途開示いたします。

セグメント別損益

セグメント別では、システムソリューションにおきましては、売上高16億9百万円（前回予想値16億4千万円）に修正しました。これは低軌道衛星製造会社向け製品のライフサイクル管理ソリューションの販売が好調に推移しましたが、大学向けシステム案件の受注が下期にずれ、製造業向けシミュレーション案件の納品が当初の計画より遅れていますが、売上高、営業利益については、ほぼ計画通りに推移する見込です。

ネットワークソリューションにおきましては、売上高5億3千6百万円（前回予想値9億円）に修正しました。これは60GHz関連の無線アンテナ案件が好調に推移しましたが、4.9GHz帯製品の販売終了に伴う新規開発の代替製品の市場投入遅れや、低軌道衛星用アンテナの製造遅延による納期遅れにより、売上高、利益とも前回予想を下回る見込みです。

電子部品及び機器におきましては、売上高77億5千5百万円（前回予想値58億1千万円）に修正しました。導電性高機能接着剤については、需給調整により、当初計画より遅れましたが、低軌道衛星搭載部品の案件が好調に推移し、株式会社エアロパートナーズにおいて、防衛省向け航空機用部材の一部納入予定が下期から前倒しとなったことにより、売上高、利益とも前回予想を上回る見込みです。